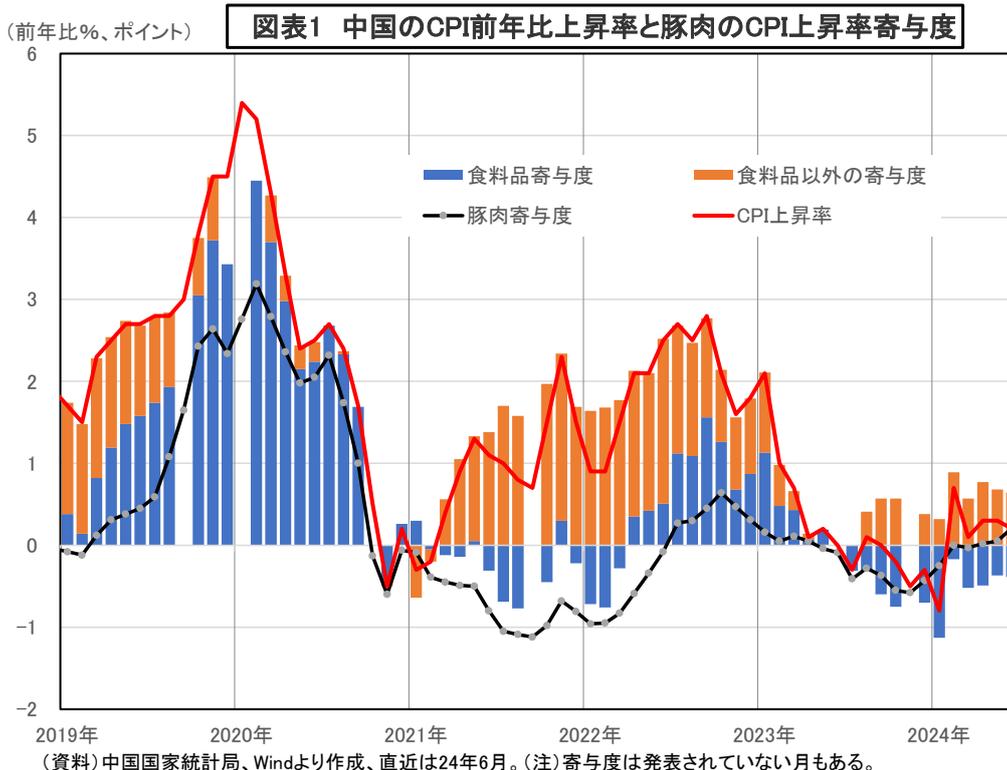


(中国)6月の消費者物価指数は前年比で5か月連続プラスも依然弱い

中国では、内需の弱さで低インフレ状態が続いている。中国の景気動向を見極めるうえで消費者物価の動向も注目されている。そこで、国家統計局が7月10日に発表した6月の消費者物価指数(CPI)のを紹介しよう。



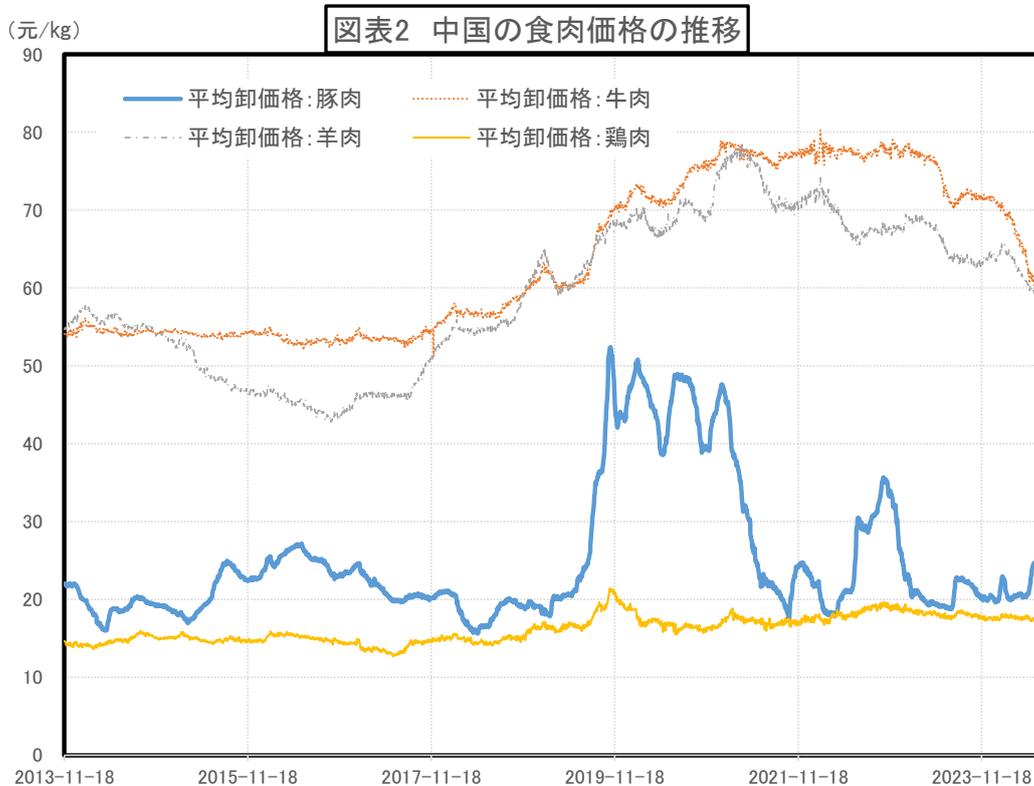
まず、前年比では、CPI 上昇率は 0.2%と 5 か月連続のプラスを維持したものの、5 月(同 0.3%)から上昇率が鈍化した(図表 1)。食料品価格は▲2.1%と 5 月(同▲2.0%)からわずかに鈍化し、寄与度は▲0.39 ポイントであった。うち、豚肉価格は 18.1%と 5 月(同 4.6%)から大幅に加速し、寄与度は 0.21 ポイントであった。一方、生鮮野菜と果物の価格はそれぞれ▲7.3%、▲8.7%と 5 月(同 2.3%、同▲6.7%)から大きく鈍化し、寄与度はそれぞれ▲0.15 ポイント、▲0.19 ポイントとなった。

食料品以外は 0.8%と 5 月から変わらず、寄与度は 0.64 ポイントであった。うち、電気自動車(EV)は▲7.4%と大きく鈍化したものの、医療サービスは 1.9%と小幅ながら加速した。

このように、6 月の CPI 上昇率は前年比で 5 か月連続のプラスとなったものの、やや弱まった。豚肉価格の上昇がプラス寄与しているものの、内需の弱さを背景に低インフレ状態にあるのは変わらない。実際、変動幅の大きい食料品・エネルギーを除いたコア CPI は前年比 0.6%と 5 月から横ばいだった。

また、前月比でも、CPI 上昇率は▲0.2%と5月(同▲0.1%)から鈍化した。詳細をみると、食料品価格は▲0.6%と5月(0.0%)から鈍化し、寄与度は▲0.11ポイントとなった。うち、豚肉価格は、生産調整による母豚数の減少などを受けて11.4%と加速し、寄与度は0.14ポイントとなった。他方、消費量の弱さと生産量の増加による影響で生鮮野菜と果物の価格はそれぞれ▲7.3%、▲3.8%と5月(同▲4.3%、同3.0%)から大幅に鈍化した。

食料品以外は▲0.2%と5月から変わらず、寄与度は▲0.13ポイントであった。うち、原油価格の下落もあり、ガソリンは▲2.0%と鈍化したほか、企業の販促キャンペーンによる値下げの影響で自動車・家庭用器具・娯楽用品の下落幅は▲0.8%～▲1.3%となった。一方、大学受験の終了に伴い、夏休みで出かける人々が増えたことで、車両レンタルと航空チケットはそれぞれ6.4%と2.5%と加速した。



(資料) 中国農業農村部、Windより作成、直近は24年7月10日。

先行きについても、地方債および超長期特別国債の発行・利用加速、中古住宅販売の持ち直しの兆しも見られたことから、内需の緩やかな持ち直しが見込まれる。加えて、豚肉価格は秋・冬にかけてさらに上昇することも予想される(図表2)。一方、消費者の雇用・所得環境の大幅な改善には依然として時間を要することから、CPIは緩やかな上昇にとどまるものと思われる。1～6月期のCPI前年比上昇率は0.1%にとどまっており、24年通年は0.5%前後と見込まれ、政府の目標である3%を大きく下回るだろう。

デフインフレ基調の長期化への懸念が強まるなか、今後も消費者物価の動向を注視していきたい。